



通常訪問研修(10/31)を終えて 雄山中学校

研修主題：よりよい人間関係を築き、ともに学び合う生徒の育成

本校では、「学び合い」「認め合い」「高め合う」生徒の育成を目標に、温かい人間関係づくり、信頼関係を基盤とした組織的な指導・支援に取り組んでいます。

また、町ぐるみで取り組んできた「読み解く力」向上の取組が最終年度（3か年計画の3年目）を迎え、今回の訪問研修では、全授業で「読み解く力」を意識した手立てを位置付けるようにしました。

<明らかになったこと・指導助言いただいたこと>

- ・生徒が意欲をもって授業に参加しており、教師と生徒の信頼関係がしっかり構築されている。
- ・生徒の主体的・対話的な学びを支えるものとして「学習意欲」があるが、これからの教師は指導者ではなく、支援者としての役割が大きくなっていく。
- ・問題発見能力を高めるために、生徒が「解決したい」と思う課題設定が必要で、そのためには「生徒の日常生活」から考えるという手法が有効である。
- ・生徒の自己調整（自分の考えや、ここまでの学びの不十分なところを改善すること）のポイントとして、①見通しをもつこと、②情報の収集と選択、③対話のタイミング（効果の検証も必要）、④振り返りによる自覚（何ができて、何ができないか）が挙げられる。
- ・生徒の「自己有用感」と「主体的な学び」に相関関係があることが「全国学力・学習状況調査」の生徒質問調査結果にも表れている。
- ・放課後学習教室に100名を超える生徒が参加するなど、家庭学習につながる学習環境が構築されている。

<残された課題>

- ・生徒が自ら学び方を考え、工夫することができるように学習環境を整えていくこと。例えばタブレットを活用して家庭学習ができるようにするとか、他の学び方を知るための対話場面を仕組むなど。
- ・生徒の意欲を引き出す学習課題の工夫について、今後も追究していくこと。

文責 教務主任 松原剛志

